国語分科会　エデュスクラムの活用における成果と課題

| | 成果 | 課題 |
|---|---|---|
| 課題設定 | 班で１つの提案文を書き、学級全体に向けて発表会をすることを単元全体のゴールとした。第１時で暮らしに身近な電気や水、食料、ゴミなどのデータを提示したことによって、身の回りにある問題について考えることができた。 | 単元のゴールが「学級内での発表」だったため、提案文を書く目的意識が低かったように感じる。異学年や教職員へ向けての発表等にした方が相手意識も生まれ、発表内容にも変化が出た。 |
| フリップやアイテム完成の定義 | 今回は Canva のホワイトボード機能を使用し、フリップをデジタルにしたことで、省スペースで学習がすすめることができた。<br>「アイテムを出すときのヒント」を参考にし、班で協働してアイテムを出すことができた。<br>班での振り返り（作業進捗度：折れ線グラフ）を行った後に個人での振り返り（エデュスクラムの取り組み：Google form）を行うことで児童一人一人の学習を見取ることができた。 | 完成の定義は担任が提示をしたが、班で話し合って決めていく流れを採用しても良かった。<br>発表会までのアイテムを出すように声をかけたが、アイテムの全体量が少ない班があった。アイテムを細分化させる必要があった。 |
| ブック | 教科書を基本の Book としたが、ホワイトボード上にも様々な Book を提示した。また、教科書に書かれていた提案文の全文も載せ、書き方のヒントをいつでも見られるようにした。 | フリップやブックが１つの画面に収まっていることに関しては、良いと感じる児童と情報が多くて見にくいと感じる児童がいた。タブレットを操作する上で技能の差が見られる。 |
| 協働的な関わりを促す手だて | 話し合いをする際はタブレットから目を離すよう声をかけることによって活発な対話が生まれた。<br>１つのファイルに全児童が入れるようにした（共同編集）。他の班のフリップを見ることができ、良いものを取り入れることができた。 | 数人で１つの提案文を書く活動のため、全体の提案文として整合性がとれていない部分があった。班全員で推敲の時間を確保したものの、一度作り上げた文章を直していくのは難しい部分が多かった。 |
| 授業実践で明らかになったこと | ○Canva やドキュメントの共同編集は有効であった。全ての情報をタブレットで完結させたのは児童の机上が乱雑にならず有効であった。<br>○タイピング能力や情報活用能力の差がある。また、班で１つの提案文を書いたため、書き上げてからの推敲も大切である。 | |